

令和 2 年度学校評価結果

(1) 本年度の重点目標

- 1) 実践的な職業教育の推進
- 2) 就労支援・卒後支援の充実
- 3) 生徒の自信を育む指導の充実
- 4) 安全確保・危機管理の徹底
- 5) 開かれた学校づくりの推進

(2) 評価項目

- 1) 働き続けるために必要な力を育成するための指導内容の充実と校内体制整備
- 2) 生徒の希望・適性を踏まえた就労先の開拓と定着に向けた卒後支援
- 3) 教員と生徒の信頼関係の構築と、生徒同士の認め合う学級経営
- 4) 危機管理体制の見直しと非常時の連絡体制の構築
- 5) ホームページ等を活用した適切な情報発信による、地域・関係機関における本校教育活動への理解の促進

(3) 評価結果

今年度の重点目標については概ね達成することができました。

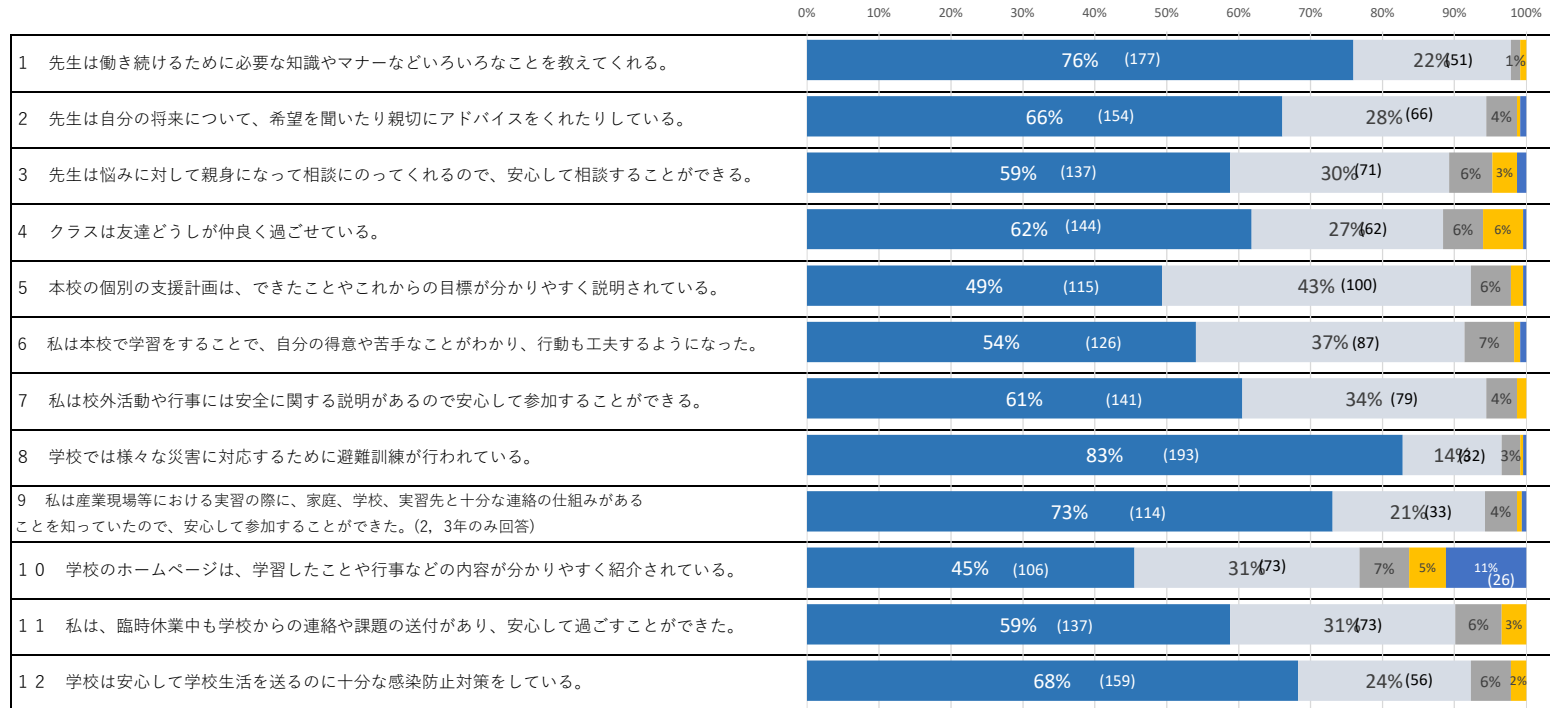
評価に当たって明らかになった改善点については次年度以降取り組んで参ります。

(4) 改善に向けて

- 1 新型コロナウイルス感染症対策下における学校教育活動の充実への対応
 - ① 警戒レベルに応じた感染対策を講じた上での効果的な校内作業実習の内容の検討
 - ② 効果的な情報機器の活用法の研究
- 2 働き続けるために必要な力を育成するための指導の体系的整備
 - ① 各学年における段階的な達成目標の検討
 - ② 校外の就労体験活動と校内作業実習の有機的な運用の強化
- 3 生徒・保護者・中学校・地域・企業に向けて本校に対する理解を深めるための情報発信
 - ① ホームページコンテンツの更なる充実
 - ② 個別の指導計画の記載内容及び記載方法の見直し

令和2年度学校評価アンケート（生徒対象）

回答総数：233



A:よくあてはまる

B:やや当てはまる

C:あまり当てはまらない

D:全く当てはまらない

E:無回答・その他

%の後の（ ）内の数字は回答数

○生徒対象アンケートに基づく評価：概ね達成した

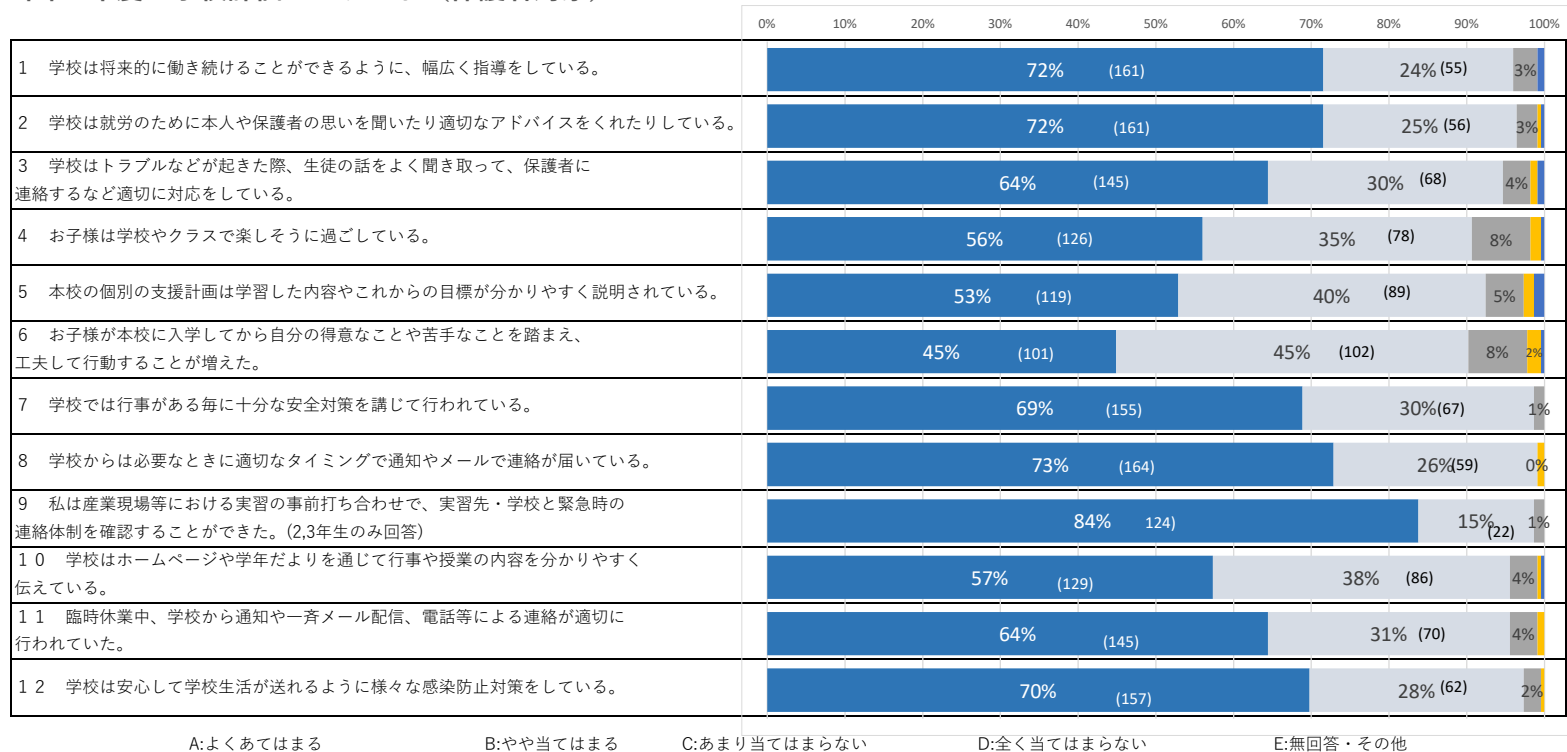
- ・4段階の評価においてAとB評価が12項目中11項目で8割を超えた。
- ・残る1項目（ホームページによる発信）については無回答が約1割あり、A～Dの回答者中のAとBは8割を超えた。

傾向分析

- ・質問「3」（悩みへの対応）及び「4」（友人同士が仲良く過ごす）について、教師と生徒の関係や生徒同士の関係など、人間関係に関する設問で低い評価の回答があった。引き続き教師の教育相談的な対応の充実を図っていきたい。
- ・質問「7」（校外活動や行事の安全対策）や「11」（臨時休業中の安心感）など、安心や安全に関する事項で低めの評価をしている生徒がいる。感染症や災害時の対応について生徒の安心感が深まるよう、引き続きわかりやすく説明していきたい。
- ・質問「10」（ホームページによる情報発信）についてはHPを見たことがないことによるE：無回答が多かった。生徒には教科「情報」の授業等を活用して開く体験をさせるとともに、コンテンツを充実させるなど改善を図り、学校HPへの興味を持たせたい。

令和2年度 学校評価アンケート（保護者対象）

回答総数：225



A:よくあてはまる

B:やや当てはまる

C:あまり当てはまらない

D:全く当てはまらない

E:無回答・その他

%の後の（ ）内の数字は回答数

○保護者対象アンケートに基づく評価：概ね達成した

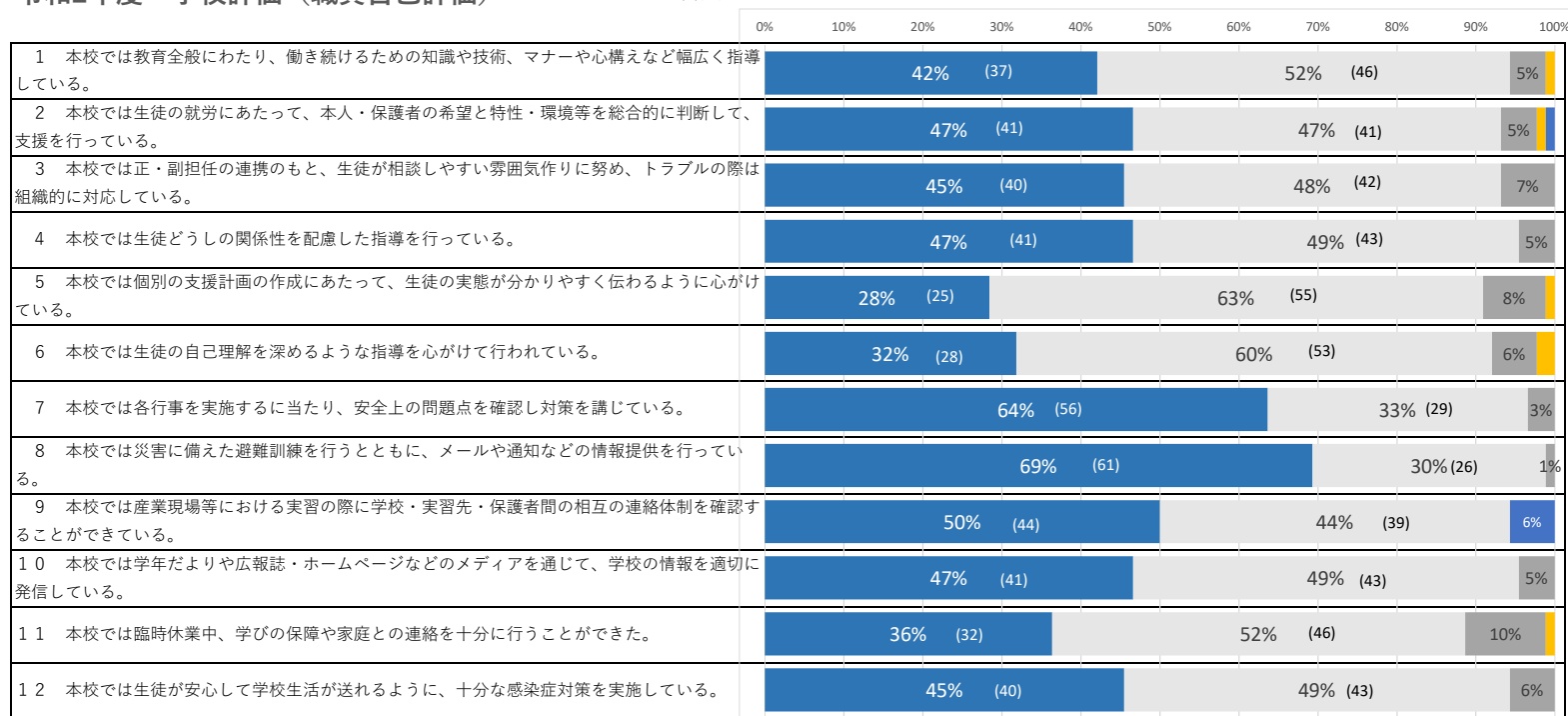
4段階の評価においてAとB評価が12項目すべてにおいて9割以上であった。

傾向分析

- ・質問項目「4」（学校やクラスで楽しそうに過ごしている。）ではC + Dの割合が9%とやや高かった。集団での活動が苦手な生徒に対しても居心地のいい環境が整えられるよう努めたい。
- ・質問項目「6」（工夫して行動することが増えた。）にCまたはDの回答がやや多かった。生徒一人一人は確実に成長しているので、そのことが感じられるように説明の方法などの改善を図りたい。

令和2年度 学校評価（職員自己評価）

回答総数：88



A:よくあてはまる

B:やや当てはまる

C:あまり当てはまらない

D:全く当てはまらない

E:無回答・その他

%の後の（ ）内の数字は回答数

○教職員自己評価結果：概ね達成した

4段階の評価においてAとB評価の割合が12項目中11項目において9割以上であった。

傾向分析

・質問項目「11」（臨時休業中の家庭との連絡等）については、もっと充実できたのではないかと考える教職員が多かったものと思われる。再び休業等の措置があった際にどのように学習の機会を確保するかについては、今後導入されるタブレットの活用等と合わせ検討を続けたい。

・質問項目「5」（個別の支援計画のわかりやすさ）については、生徒の実態を保護者に伝える大切な手段であるので今後も、継続的に見直しと改善を図りたい。